

<p>3日 (日)</p> <p>ヘブライ 11章</p>	<p>「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからきたのではないことが分かるのです」(3節)。信仰とは、目には見えないけれど、確かに私たちに語られている神の真実の言葉に聴き、従っていくこと。特にキリストの十字架に決定的に語られた神の愛を土台としていくこと。</p>
<p>4日 (月)</p> <p>ヘブライ 12章</p>	<p>「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか」(2節:口語訳)。「導き手」は「創始者」とも訳される言葉。イエスがいてくださるから、私たちは見えない神を信じることができる。イエスが共に歩んでくださるから、たとえつまずいても、裏切ってしまうても、神の愛に引き戻され、立ち上がることが出来る。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>ヘブライ 13章</p>	<p>「兄弟としていつも愛し合いなさい。旅人をもてなすことを忘れてはなりません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」(1-2節)。「天使」は神の言葉を持ち運ぶ人。背中に羽があるとは限らない。神はいろいろな人を「天使」として用いられる。今日、み言葉を届けてくれる「天使」を大切にもてなすことができるように。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>ヤコブ 1章</p>	<p>「だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです」(19-20節)。自分の「正しさ」をまず語り、自分の「正しさ」を相手に認めさせたい私がいる。しかし、まず「聞く」ことファースト。自分の意見と異なる人に「聞き」、神に御心を「聞く」。毎朝、このみ言葉をまず「聞く」ことから始めたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.3.3～3.10

<p>7日 (木) ヤコブ 2章</p>	<p>「あなたがたのだけれが、彼らに『安心して行きなさい。…満腹するまで食べなさい』と言うだけで、身体に必要なものを何一つ与えないなら、(信仰は)何の役に立つでしょう」(16節)。信仰は「神の愛を受け取る」こと。しかし「儀礼的に」受け取るのではなく、「心の真ん中で」受け取って、私たちの心と体が隣人に向かうことを神は望まれている。</p>
<p>8日 (金) ヤコブ 3章</p>	<p>「わたしたちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどって造られた人間を呪います。同じ口から賛美と呪いが出て来るのです」(9-10節)。主なる神は、喜びの時だけでなく、悲しみの時、闘いの時にも「賛美」を与えてくださる方。今日、私の心に「呪い」が浮かぶとき、主が与えたもう「賛美」を思い起こし、踏みとどまることができるように。</p>
<p>9日 (土) ヤコブ 4章</p>	<p>「むしろ、あなたがたは、『主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう』と言うべきです」(15節)。「これをして、金儲けをしよう!」と考えている人への警句。「お金」に心捕らわれるとき、私たちは神への畏れと感謝を忘れてしまう。8節「神に近づきなさい」。今日、私の心はどこに向いているのか。神に向かい一歩近づく者とされて。</p>
<p>10日 (日) ヤコブ 5章</p>	<p>「主が来られる時まで忍耐しなさい。農夫は、…忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです」(7節)「あなたがたは…主が最後にどのようにしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた方だからです」(11節)。主の時まで待つ私たち。主の計画をすべて理解できないけれど、賛美と祈りをもって神により頼む歩みへと押し出されて。</p>